

オーストラリア春期英語研修

法学部法学科法律学コース 2年

・授業について

週5日（平日）の13時から17時15分が授業時間として設けられており、4技能を満遍なく扱う授業形態でした。授業を通じて最も高めることが出来た技能はライティングです。これはネイティブの先生による文章の書き方、考え方の指導と添削を繰り返し受けたことに加え、放課後、質問等を積極的にできる環境が整っていたことが大きかったと思います。それに引き換え、スピーキングに関しては（個人的には）思っていたほどの能力向上は感じられませんでした。私の振り分けられたクラスの人数は20人ほどで中国人が2人その他は日本人（首都大生は4人）で構成されていたためにディスカッションの際に英語ではなく日本語を話してしまう人間が多かったことが要因の一つとして挙げられると思います。

・自由時間について

平日に関しては、上述の通り、授業が午後にあったので午前中に遠出することがなかなか難しく、観光地を巡ったり、町で開催されていたアクティビティ等に参加するといったことはあまり出来ませんでした。なので、その分朝早くから図書館で現地の学生に混ざって勉強や読書に励む、大学近くにあるジムに通う、ショッピングセンターでスケートをするなどといった、現地学生に近い生活を送っていました。

休日は世界遺産であるオペラハウスでのオペラ鑑賞や観光名所であるボンダイビーチ、タロンガ動物園などを訪れ、様々な場所で楽しく時間を過ごしました。

・ホームステイについて

私がオーストラリア語学研修に参加した最大の理由は宿泊形態がホームステイであったことでした。スピーキング能力の向上を一番の目的としていたからです。

私のホームステイ先は70代の女性1人の家でした。家から大学までは片道約1.5時間かかり、交通の便もあまりよいとは言えないものでした。

少し特殊なケースだったのかもしれませんが、この方は私が話をしようと試みてもあまり応答がないことが多く、正直かなり居心地が悪かったです。ホームステイを完全にビジネスとして割り切っているような印象を受けました。残念ながら、最後までその状態は改善

されませんでした。

私にとってホームステイ先の人間との相性やその後のかかわり方について非常に考えさせられた一か月間でした。

- ・ さいごに

今回このプログラムに参加したことで、総合的な英語力の向上、日本と外国との文化面における違いを肌で実感するとともに他人とのかかわり方について改めて考え直すことが出来ましたし、外国への関心が以前より高まりました。そして、限られた時間の中でどこへ行き、何をし、どのように行動すべきなのか、優先順位をつけ自分自身で計画立てて動くことの重要性を再認識出来たという点でとても貴重な経験が出来たと思います。

留学に少しでも興味がある方はぜひ参加してみてください。